

## シンガポール ▶▶ バルセロナ



更科 枝里  
SARASHINA Eri

E・ART Company株式会社代表取締役 / QOLビジネス研究会(文理シナジー学会分科会)会長

ピラティスの国際ライセンス試験官を経て、健康寿命の向上をキーワードに、QOL(生活の質)を追究する事業に取り組んでいる。機能性解剖学・身体力学・生理学を駆使した運動指導という観点から、エビデンスに基づき、メディカルの延長上にあるエクササイズ

を開発し、超高齢化という社会問題への貢献を目指す。また、アイドルの振付など、クリエイティブな活動も行い、ARTを通したQOLを提案し発信し続ける。船内では、国際ライセンスのインストラクター養成、様々なレッスンの他、健康運動指導の講義を行う予定。

## コーチン ▶▶ バルセロナ



森達也  
MORI Tatsuya

映画監督 / 作家 / 大学教員

ディレクターとして、テレビ、ドキュメンタリー作品を数多く制作。1998年、オウム真理教の荒木浩を主人公とするドキュメンタリー映画『A』を公開。ベルリン・ブラン・香港・バンクーバーなど各国映画祭に出品し、海外でも高い評価を受けた。2001年『A2』を完成。米国同時多発テロ後、高揚する危機管理意

識とその副作用について、雑誌・新聞などで多く発言する。また不安や危険をあおる今のメディアについても言及。著書に『世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい』『ドキュメンタリーは嘘をつく』『いのちの食べかた』『死刑』『オカルト』など多数。2011年には『A3』で講談社ノンフィクション賞を受賞。

## コーチン ▶▶ ポートサイド



アーデル・スレイマン

Adel SULIMAN  
在日リビア人学生 / リビア民主化運動活動家

6歳まで日本で育ち、その後19歳まで北アフリカのリビアで育つ。小、中、高とリビアの公立学校で学び、高校を卒業後来日。NGOで約2年半勤務後、2008年4月エリコ通信社入社。同社にてアラビア語・日本語の通訳、翻訳を担当。2009年10月より、慶應義塾大学総合政策学部に入学。2011年のリビア内戦

を受けて、代官山の在日リビア大使館前や渋谷において、リビアで行われている虐殺に反対するデモを先導した。東日本大震災以後は、ピースボートのボランティアスタッフとして、宮城県石巻市に入り、現地ボランティアコーディネーターとして活躍する。

## ポートサイド ▶▶ マラガ



ヤスナ・バステイッチ

Jasna BASTIC  
ジャーナリスト

ボスニア・ヘルツェゴビナ・サラエボ出身。1994年のボスニア紛争中にサラエボを脱出する。戦争難民として避難し、現在はイスラエル・チューリッヒ在住。フリーランスのジャーナリストとして活躍する傍ら、ヨーロッパ各地で旧ユーゴスラビアに関する平和会議や反戦運動に参加してきた。メディアと紛争問

題の専門知識を活かし、現在ピースボートヨーロッパ支部のスタッフとして、ピースボートのIS(国際奨学生)プログラムや、中東初の非核武装地帯を確立するための平和構築プロジェクトのコーディネーターも務めている。

## コーチン ▶▶ クシャダス



吉岡 淳  
YOSHIOKA Atsushi  
「カフェスロー」代表 / 世界遺産アカデミー特別研究員

日本ユネスコ協会連盟の元事務局長として、30年に渡り世界遺産の保護や広報活動に携わる。南米エクアドルで先住民族の生き方に触れたことをきっかけに、地域でできる地球に優しいライフスタイルを提案するオーガニック料理の店「カフェスロー」を2001年に設立し、新しい文化を発信し続けている。船

内では世界遺産を通して地球46億年の歴史と人類文明や、コミュニティビジネスとしてのスローカフェの作り方などのテーマで講演を行う予定。著書に『カフェがつなぐ地域と世界』『しあわせcafeのレシピ～カフェスローものがたり～』など。

## バルセロナ ▶▶ サントドミニゴ



伊藤千尋  
ITO Chihiro  
国際ジャーナリスト / 朝日新聞記者

学生時代にキューバでサトウキビ刈りボランティアをし、「ジプシー(ロマ)調査探検隊長」として東欧を旅するなど、冒險をこよなく愛するジャーナリスト。特派員として中南米をはじめ東欧革命など、激動する世界の現場を訪ねながら、人々の声をリアルに伝えてきた。70カ国に渡る豊富な取材経験にもと

づく明快な講演の数々に乞うご期待。著書に『観光コースでないベトナム』『ゲバラの夢、熱き中南米一君の星は輝いているかpart2』『一人の声が世界を変えた』『世界一周元気な市民力』『地球を活かす 市民が創る自然エネルギー』など多数。

## コーチン ▶▶ ピレウス



ミランダ・シュラーズ  
Miranda SCHREURS

ベルリン自由大学 環境政策研究所所長

2008年よりドイツ連邦政府の環境諮問委員会委員。2011年、メルケル首相が福島原発事故後のエネルギー問題を検討するために設立した、ドイツ政府「安全なエネルギー供給に関する倫理委員会」の委員に任命さ

れ、ドイツの脱原発プロセスに大きな影響力を与える。また、日本の原発問題にも精通しており、現在はヨーロッパ各国の横断的な環境政策を検討する欧洲環境・持続可能性評議会(EEAC)会長も務めている。



リサ・サリバン  
Lisa SULLIVAN  
スクール オブ ジ アメリカズ ウォッチ コーディネーター

アメリカ合衆国出身、ベネズエラ在住26年。アメリカ合衆国のラテンアメリカにおける軍事化を監視し、また平和の文化を促進する活動を展開している「スクール オブ ジ アメリカズ ウォッチ」のラテンアメリカコーディネーター。サリバン女史はラテンアメリカの18カ国に使節団を送り、何百もの社会変革

運動に働きかけ、ラテンアメリカの8人の首相や政府代表者、人権機関にも面会し、その結果、6カ国が「スクール オブ ジ アメリカズ (SOA)」から自国の軍人を撤退させることに合意する。

※SOAはアメリカ・ジョージア州の米軍基地にあるラテンアメリカの軍人に戦闘訓練をする学校で、アメリカの防衛省により運営されている。

## バルセロナ ▶▶ モンテゴベイ



**Dragon76**  
DRAGON SEVENTY SIX  
ペインター

ストリートアートを基本とし情熱的で生命力溢れるタッチで、国内外の企業広告やアパレルブランドとのコラボレーション、また音楽関連のビジュアルや壁画など幅広く手掛ける。また、即興で繰り広げられるダイナミックなライブペインティングは世界中からのオファーも絶えず、多くの観客を魅了する。2011年にはUKのフットボールクラブ

「Liverpool FC」とメインスポンサーであるCarlsbergが共同制作したCMにメインアーティストとして出演している他、同年、南アフリカの元大統領ネルソン・マンデラの娘ジンジ・マンデラの50歳のバースデーパーティーにアーティストとして招待されライブペインティングショーを披露する。



**アナ・フランシス・ゴンゴラ**  
Ana Francis GONGORA  
ジェンダー専門家

エルサルバドル出身、ジェンダー関係修士。1992年まで続いたエルサルバドル内戦時代から、社会正義の下に、都市・農村部の女性問題に関わる。現在は国内外でジェンダー・コンサルタント・研究家として活動中。エルサルバドル国内、そして中南米の女性運動の中では、研究家・社会活動家としても高く評価されている。船内では、エルサルバドルの歴史、内戦下における自身の体験、そして現在取り組んでいる「ジェンダー平等」を目指す活動についてお話しeidただく。

## カサブランカ ▶▶ サントドミニゴ



**古今亭 菊千代**  
KOKONTEI Kikuchiyo  
落語家

今年、斬家29年目を迎える菊千代師匠。1993年に先輩である三遊亭歌る多さんと共に女流初の真打に昇進。古典落語から創作落語、手話落語、韓国語と日本語両方で繰り広げる2次元落語など積極的に新しい分野を開拓し、国境を越えて幅広く人を楽しめている。師匠ならではの温かみのある寄席

は、落語が大好きという方から、寄席に行つたことがないという方まで楽しめること間違いなし。今年8月には、子どもから大人まで落語を楽しめる『体験! 子ども寄席』を出版予定。「海の上で落語を聞く」という不思議体験に乞うご期待。

## クリストバル ▶▶ マンサニージョ



**クリフトン・トルーマン・ダニエル**  
Clifton Truman DANIEL  
米国第33代大統領ハリー・S・トルーマン最年長の孫

元新聞記者および編集者で、広島・長崎への原爆投下を命じたトルーマン元米大統領の最年長の孫であるクリフトン・ダニエルさんは、ピースボート「おりづるプロジェクト」の特別ゲストとして乗船。2012年に元大統領の家族として初めて広島平和記念式に参列

し、記者会見で「核兵器が二度と使われないよう努力する」と決意を語った。祖父のトルーマン大統領について2冊の本を著作しており、現在、広島と長崎の原爆についての本を執筆中。

## デンシャル ▶▶ モンテゴベイ



**ドニーシャ・プレンダーガスト**  
Donisha PRENDERGAST  
女優 / 祖父ボブ・マーリー

ジャマイカ出身。作家、女優、ダンサー、振付師など様々な分野で活躍。近年では、アフリカをルーツに世界各地に暮らす黒人の「繋がり」に着目したドキュメンタリー作品に関わる。また、ガーナ、南アフリカ、ジャマイカで開かれた若者によるシンポジウム「Africa Unite」を主催し、基調講演者を務めるなど

「アフリカ」をテーマとした取り組みも行っている。2007年、世界8カ国に渡ってラスタファリの起源や進化を探るドキュメンタリー映画『RasTa: A Soul's Journey』に主演。船内ではジャマイカの歴史、文化、ラスタファリズムについてや、祖父ボブ・マーリーについての講座を行う。



**ピーター・ヤーロウ**  
Peter YARROW  
歌手 / NPO「オペレーション・リスペクト」創設者

1960年代を代表するフォーク音楽トリオ、ピーター・ポール&マリー(通称PP&M)のメンバーの一人。デビュー当時からベトナム戦争への反対運動や、アメリカや南アフリカでの公民権運動まで幅広い政治活動に関わ

る。2000年には米国のいじめ問題に取り込むNPO「オペレーション・リスペクト」を創設し、現在も社会的不公正の変革や平和を願って活動を続けている。代表曲に「風に吹かれて」「花はどこへ行った」「パフ」など多数。

## サントドミニゴ ▶▶ アカトラ



**リカルド・ナヴァロ**  
Ricardo NAVARRO  
国際環境団体「FoEインターナショナル(地球の友)」元代表

エルサルバドル出身。ゴールドマン環境賞や国連名誉500賞など数多く受賞する環境活動家。1980年代を中心に13年間続いたエルサルバドルの内戦中、草の根の環境保護団体として「セスタ(CESTA)」を創設。過去の環境破壊を回復させ今後の破壊を防止すべ

く、市民社会を中心とする取り組みを続けるこの団体は、現在エルサルバドル最大の環境NGOとなった。船内では、地域から地球規模まで幅広い視点で環境問題について講座を行う。



**マーク・ウェイス**  
Mark WEISS  
NPO「オペレーション・リスペクト」教育ディレクター

マーク・ウェイスは過去11年間、「オペレーション・リスペクト」の教育ディレクターを担っている。1979年に米国内でもっとも貧しいとされるニューヨーク市ブロンクス地区で、初のオルタナティブ・スクールを創設するなど、合計20年間ニューヨーク市立校の校長をつとめた。その経験を元に、現在は

NPO「オペレーション・リスペクト」にて、全ての生徒が尊重され安心して勉強できる教育現場を作るべく活動している。同団体のトレーナーは、アメリカ国内は勿論イスラエルやウクライナ、ヨルダン川西岸地域(ウエストバンク)等をまわりワークショップを行なっている。

## クリストバル ▶▶ マンサニージョ



田部井 淳子  
TABEI Junko  
登山家

1975年、世界最高峰エベレスト8,848mに女性で世界初の登頂に成功。その後、女性で世界初の7大陸最高峰登頂者となる。世界各地の最高峰をめざし、現在、60カ国以上の最高峰に登頂。2012年7月には、東北応援プロジェクトとして「登ろう!日本一高い富士山へ」を呼びかけ、福島を中心とする東北の高

校生60名の富士登山を成功させた。山岳環境保護団体「NPO日本ヒマラヤ・アドベンチャー・トラスト(HAT-J)」所属。20~40代女性のための山の会「MJリンク」呼びかけ人。著書に『高いところが好き』『田部井淳子の人生は8合目からがおもしろい』『田部井さん、頂上だよ』『山の単語帳』など。

## マンサニージョ ▶▶ 横浜



松村 豪太  
MATSUMURA Gota  
一般社団法人ISHINOMAKI 2.0代表理事

1974年生まれ。東北大大学院法学研究科修了。地元宮城県石巻でスポーツを通じたまちづくり活動を行う。勤務中に津波被害にあり、自宅も半壊するが、震災直後から瓦礫撤去、泥かき、仮設団地のコミュニティー形成などに奔走し、石巻中央部の復興活動の中

心的な役割を担う。2011年6月に『ISHINOMAKI 2.0』を設立。復興のアイデアをジャンルに縛られない多種多様なプロジェクトとして実現させている。石巻のバージョンアップが、日本のバージョンアップのモデルになることを目指す。

## カジポン・マルコ・残月



カジポン・マルコ・残月  
Kajipon Marco ZANGETSU  
文芸研究家

ライフワークは世界の作家、芸術家の墓巡礼。自身が感動した作品の作者へ「ありがとう」の言葉を伝えるため、四半世紀にわたって墓参りを続け感謝を伝えた“恩人”的数は、世界51カ国1600人以上。「民族や言語が違っても人間は相違点より共通点が多い」「芸術は難しくない」をモットーに活動し、映画、歌舞伎、アニメ、仏像、ロック、クラシック

などあらゆるものを「芸術」として初心者向けにやさしく紹介する。「墓マイラー」「ジョジョ立ち」の名付け親。現在『月刊石材』に巡礼レポートを連載。NHK『世界でニホンGO!』や民放、ラジオ、新聞などメディアで人間の素晴らしさを訴え続けている。HP『文芸ジャンキー・パラダイス』は約4000万件アクセス。

## 中原 一歩



NAKAHARA Ippo  
ノンフィクションライター

10代後半から料理、接客など食の世界に興味を持つと同時に、執筆活動を開始する。その後国際NGO職員として世界中を巡る。2009年からフリーランス活動を再開。「アエラ」「週刊朝日」「週刊現代」「ダンチュウ」など

数多くの雑誌に「時代と人間の輪郭」をテーマにルポを発表。東日本大震災では発災直後から宮城県石巻市に入って取材活動を行う。著書に『奇跡の災害ボランティア石巻モデル』『十五歳の扉「大好き」を見つけよう』など。

## 国際学生(インターナショナル・スチューデント／IS)

ピースボートでは、世界のさまざまな国や地域の若者たちを国際学生(通称:IS【アイエス】: International Students)として招待しています。ISプログラムは、政治的また軍事的な争いがあるさまざまな地域の若者に対して、平和教育や紛争解決のトレーニングの機会を提供することを目的として始まりました。また、彼らが置かれた状況や彼らが持つ課題を学ぶことを通じて、他の乗船者が、世界が抱える問題や紛争の本質に対する理解を深めることにも大きく寄与します。ISプログラムは、国境を越えて移動する「船」という中立的な空間が、平和や国際的な理解を促すために、洋上で学ぶ貴重な機会をつくり出しています。

## ダナン ▶▶ シンガポール

### ベトナムIS / ダナン青年連盟

Danang Youth Union

ピースボートが初めてベトナムに寄港したのは1985年。「ベトナム戦争」のイメージが大きかったこの国に、日本人観光客が訪れるることはほとんどなかつた。ところがここ数年、「ベトナ

ム」のイメージは大きく変わった。そんなベトナムの今を紹介するとともに、乗船者との相互理解を深めるため、1994年からピースボートが交流を続けてきた「ダナン青年連盟」からの若

手リーダー5名とコーディネーターのフックさんが乗船。船内ではベトナムの講座や日本との文化交流の企画を行う予定。

## ポートサイド ▶▶ チビタベッキア

### ドイツ・チュービンゲンIS / チュービンゲン大学

Tuebingen University

ドイツのチュービンゲン大学修士課程で平和研究と国際政治を学ぶ学生19名とコーディネーター3名が、平和教育や国際司法に関わる多様なテーマに自ら向き合う経験をするために乗船。第二次大戦後、ドイツが

どう「過去の清算」をしたかについて講座を行うほか、イスラエルやヨーロッパ諸国との和解についてのプレゼンテーションも予定している。チュービンゲン大学は、16世紀に設立されたドイツ国内で最も歴史ある有名

大学の一つであり、ヨーロッパの中でも社会科学分野においてリーダーシップを発揮している。ピースボートは2005年以来、定期的にチュービンゲン大学と協力し、この船内プログラムを行っている。

## ピレウス ▶▶ マラガ

### イランIS / テヘラン平和博物館

Tehran Peace Museum

イランからはテヘラン平和博物館で活動する5人の若者が乗船。テヘラン平和博物館はイランでの平和教育に取り組んでおり、戦争が与えるさまざまな被害に関する注意を喚起するとと

もに、特に化学兵器および核兵器の使用がもたらす壊滅的な影響について主張している。船内では、彼らのテヘラン平和博物館での活動と、最近行われた選挙や核政策などを含むイラン

の現状についてプレゼンテーションを行う。ピースボートがイランからのISを船に迎えるのは今クルーズが初めてのため、彼ら自身も日本の文化紹介企画を楽しみにしている。

PEACE BOAT

PHOTO:PEACE BOAT